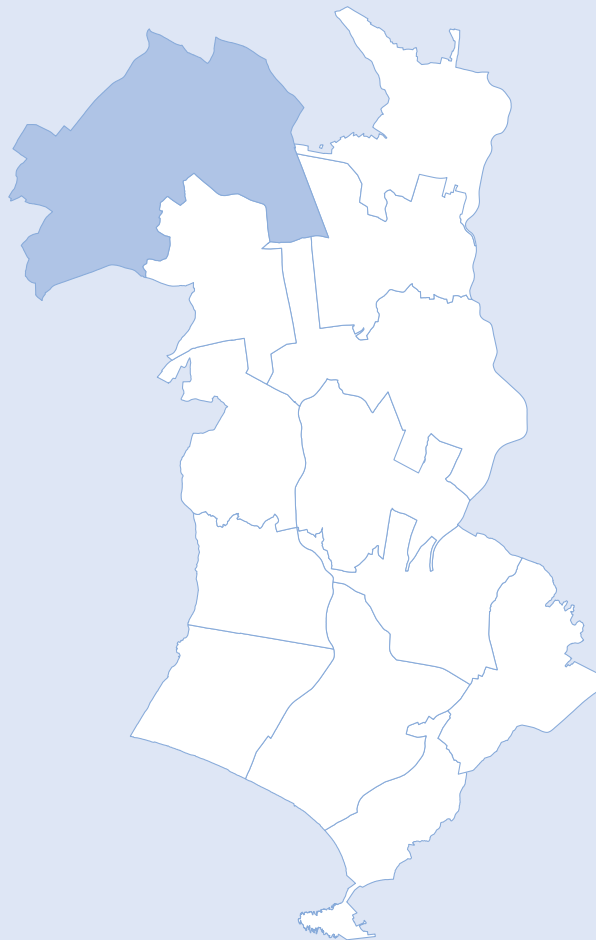


13

御所見地区構想

GOSHOMI AREA



現況と課題

1 現況

本市の北西部に位置し、綾瀬市や海老名市、寒川町、茅ヶ崎市と隣接しています。御所見地区を含め周辺に市街化調整区域が広がっており、その中心部に位置しています。

御所見地区は、6村が1889年(明治22年)の市町村制により合併して「御所見村」となり、さらに1955年(昭和30年)に藤沢市に合併・編入しました。

13地区のうち最も面積が大きく、地区北東部に相模野台地等の丘陵地帯と河岸につながる平坦地、地区南部及び西部は相模川水系の小出川、目久尻川周辺の低地部により構成され、丘陵地を中心に既存集落が形成されています。

豊かな地勢と立地を活かした、野菜や植木、養豚等が中心の都市型農業が盛んであり、本市の農業振興地域として農業基盤整備を中心にまちづくりが進められてきました。そのため、現在でも多くの自然が残されています。

昭和30年代より本市が進めた「北部工業開発計画」が御所見地区にも部分的に変化をもたらし、地区東側には工業系市街地や菖蒲沢等の住宅地が形成され、横浜伊勢原線南側では既存の地区中心である住居系と工業系の市街地が飛び地で形成されています。また、市街化調整区域ではありますが、生活道路や下水道等の都市基盤整備を進めています。

現在、本市では「農・工・住が共存する環境共生都市」をめざした西北部地域のまちづくりを進めており、御所見地区では、新産業の森の形成に向け、計画的市街地整備の検討を進めています。

御所見地区を含む本市西北部の周辺では、東海道新幹線の新駅設置をはじめ、それを中心とする「環境共生モデル都市」、東名高速道路(仮)綾瀬スマートインターチェンジ設置、(仮)湘南台寒川線整備等、広域的な事業が進展しています。



2 都市づくり上の課題

- ◆ 超高齢社会を迎え、田園空間が多く広がる本地区では、公共交通の充実や身近な道路、下水道等の生活環境の整備等、地区活力を維持し、身近な暮らしやすさを高めていく取組が必要です。
- ◆ 現在進めている「新産業の森」等の西北部地域総合整備事業を、地区全体の活力へとつなげていくことが期待されています。
- ◆ 道路整備等により高まる開発圧力に対し、これらを活かした計画的な土地利用を検討するとともに、豊かな自然環境を無秩序な開発から守り、良好な田園環境・風景を維持・保全するための取組が必要です。また、まとまった樹林地についても、維持・保全に向けた取組が必要です。
- ◆ 農業に注目が高まる一方で、耕作放棄地・荒廃地は増加しています。御所見地区がめざす農業振興・交流や北部観光の振興に向けた基盤整備、空間形成等が期待されています。
- ◆ 東海道新幹線の新駅や東名高速道路の(仮)綾瀬スマートインターチェンジ設置等、本地区周辺地域にある広域的な計画を活かした、広い視野からのまちづくりが望まれます。



3 地区の指標

※グラフ中の数値は四捨五入を用いているため、合計が100%にならない場合があります

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

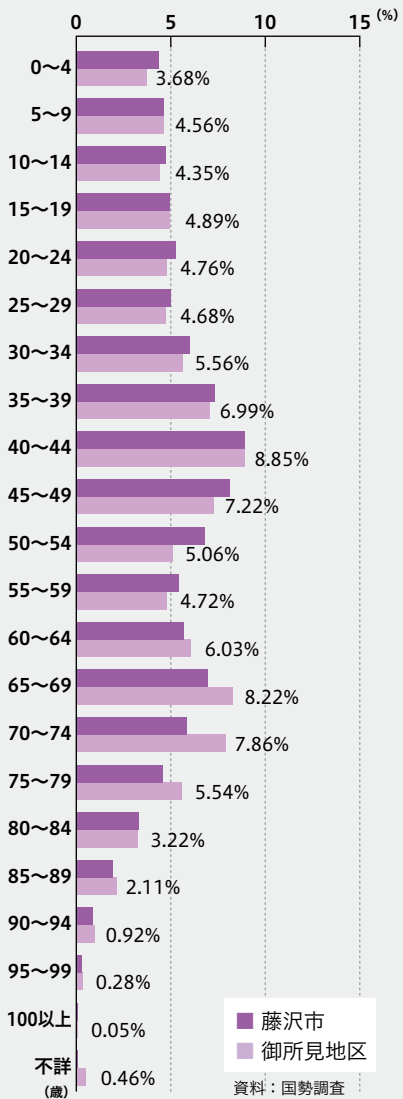
資料編

人口の状況

資料：国勢調査

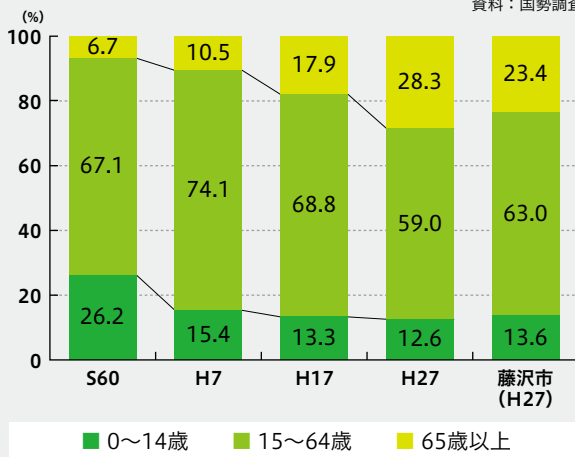
	S60	H7	H17	H27
全体(人)	17,355	17,392	17,506	18,215
増加率(%)		0.2	0.7	4.1
人口密度(人/km ²)	1,470	1,473	1,482	1,552
世帯数	4,768	5,421	6,404	7,181
増加率(%)		13.7	18.1	12.1
世帯規模(人)	3.64	3.21	2.73	2.54

年齢別人口の構成(平成27年)



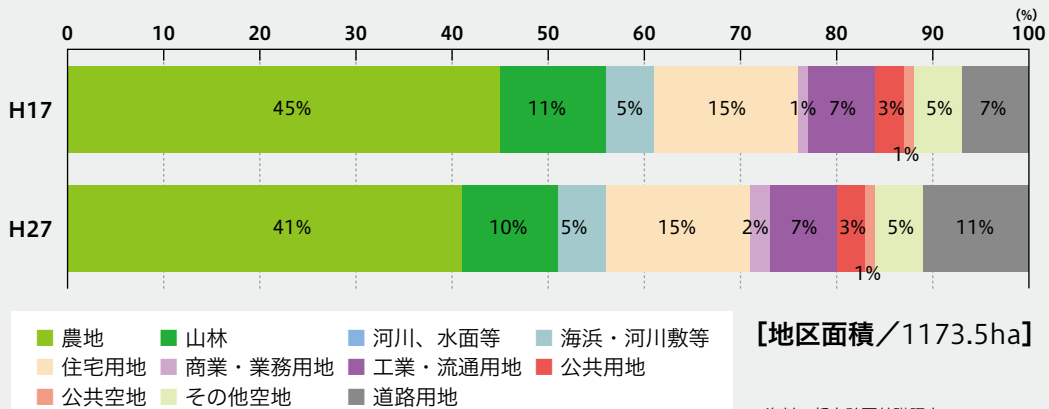
年齢三区区分構成比の推移

資料：国勢調査



土地利用構成割合の推移

- ・自然的土地利用が地区の半分以上を占めており、農地が41%と最も多くなっていますが、農地と山林は減少傾向にあります。
- ・道路用地の割合の増加は、主に4m未満の道路や農道が正確に反映されたことによるものです。

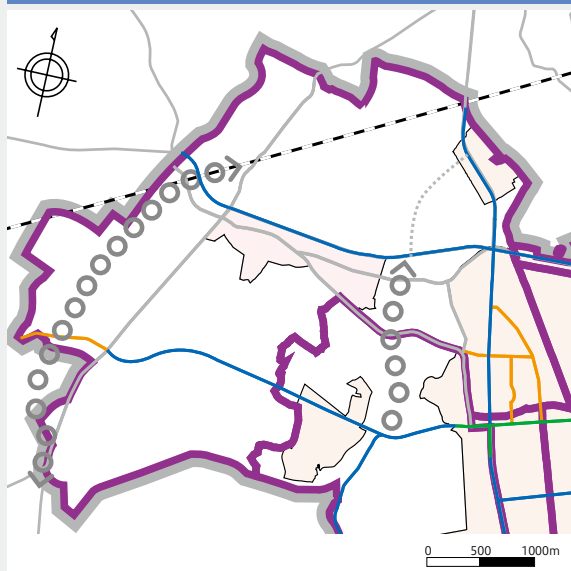


[地区面積/1173.5ha]

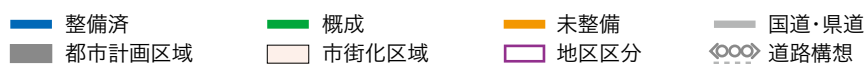
資料：都市計画基礎調査

道路・鉄軌道の状況

都市計画道路の進捗状況

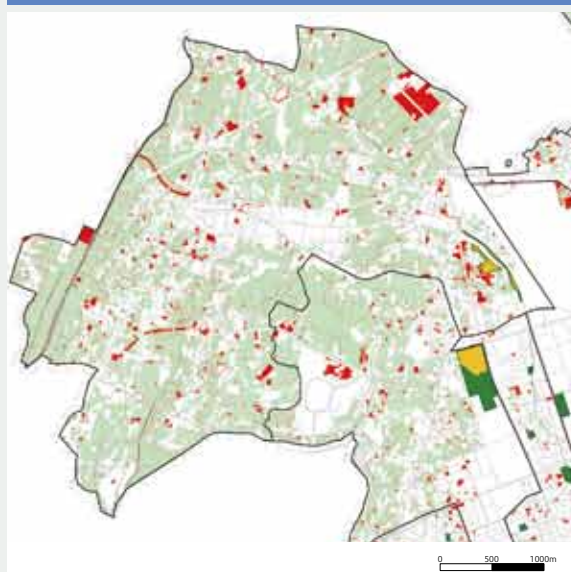


- ・都市の骨格となる藤沢厚木線や横浜伊勢原線が整備済みとなっています。
- ・遠藤宮原線は、県道丸子中山茅ヶ崎線以東部分について整備済みとなっています。



水・緑の状況

緑地減少の状況(H17→H27)



- ・農地、山林が地区全体に広がっているものの、都市的土地利用への転換が見受けられます。
- ・小規模な都市公園が整備されていますが、近隣公園である湘南の丘公園は、まだ未整備です。
- ・地区東側で一色緑地が指定されています。



*土地利用状況については、都市計画基礎調査の項目変更等により、実際の土地利用の変更の有無にかかわらず、土地利用転換があったものと見なされる場合があります。 資料：都市計画基礎調査

地区の将来像

住んで、見て、歩いてわかるまちの良さ
= 地域資源を活かし、北部新中心拠点を目指します =

良好な田園環境の維持と暮らしやすさの向上を目標に、東海道新幹線の新駅や東名高速道路の(仮)綾瀬スマートインターチェンジ等全国へとつながる広域交通の更なる連携向上を活かした活気と活力のあるまちをめざします。

御所見中心拠点地区周辺における市民の暮らしを支え、暮らしやすさを高める拠点づくりや、「新産業の森」等の新たな産業基盤の整備を通じ、活力創出を進めます。

農業交流・振興への取組や農地保全、斜面林等の豊かな自然環境の維持・保全等、地域の活性化とともに、ゆとりと潤いのある地区の形成をめざします。

まちづくりの基本方針

土地利用

①御所見中心拠点地区周辺における地域活力の交流を育む拠点形成

- ◆御所見中心拠点地区周辺では、一体的な拠点として、地域交流・活動機能、地域商業機能等の充実を図ります。
- ◆御所見中心拠点地区では、生活基盤施設の充実や地域の活力創出に資する計画的なまちづくりを推進します。

②新産業の森等の産業系土地利用の計画的誘導

- ◆(仮)綾瀬スマートインターチェンジの整備を見据え、産業交流を導く新たな産業拠点として、周辺環境と調和した効果的な施設緑化等により豊かな緑につつまれた「新産業の森」の形成をめざします。
- ◆藤沢厚木線沿道では利便性の高い交通機能を活かし、環境、情報分野、既存工業の新たな分野への展開等、研究開発施設等を段階的に立地誘導します。
- ◆葛原北側では基盤整備を進め流通・業務地等への転換を図ります。
- ◆幹線道路沿道では無秩序な土地利用を抑制しつつ、その一部については、景観や周辺環境と調和した計画的な土地利用を誘導します。

③既存住宅地の維持及び生活環境の向上

- ◆狭隘道路の解消や生活道路の拡幅や新設、下水道整備を中心とした生活排水処理施設の整備、公園の整備等、生活環境の向上を図ります。
- ◆既存集落と介在農地を含む区域は、交換分合により介在農地の集約とともに、居住型業務地等の創出を図ります。
- ◆幹線道路沿道では、農地、樹林地、集落地との共生をテーマに、良好な沿道環境を維持するために、景観や周辺環境と調和した計画的な土地利用のあり方について検討します。
- ◆市街化区域内の住宅地では、一般住宅地として店舗や事務所等と共存した良好な居住環境の形成を図ります。
- ◆災害時や緊急時に備えるため、ブロック塀の改修等、安全・安心の向上を図ります。

④農地の保全及び農業振興・活性化の促進

- ◆まとまった農地を食糧等生産の場として維持するとともに、農業・農地への需要の高まりや多様な農業形態と連携しながら、耕作放棄地や荒廃地等の削減を促進します。農道拡幅等の生産基盤整備により、生産性の向上を図ります。

- ◆地域振興や地産地消の促進に向け、特色ある物産販売、農場でのレクリエーション機能等を有する「都市農村交流拠点」等交流の場づくりを促進します。

⑤ 広域交通環境を活かした工業系市街地としての維持・充実

- ◆生産機能や研究開発機能等の維持及び立地誘導に向け、主要幹線道路横浜伊勢原線、藤沢厚木線等広域交通基盤を活かした、操業環境の維持・充実に努めます。
- ◆既成市街地の工業、住宅混在地においては、居住環境に配慮しつつ、良好な生産環境を保全し、その機能の維持・強化に努めます。

交通

① 地域交通との連携を強める道路交通ネットワーク形成の推進

- ◆東海道新幹線の新駅や東名高速道路の(仮)綾瀬スマートインターチェンジ等全国交通へのアクセスとなる広域交通拠点や都市間連携の形成に向け、(仮)湘南台寒川線や丸子中山茅ヶ崎線の整備を促進します。
- ◆地区内各方面からの広域連携強化に向け、(仮)遠藤葛原線等の地区内幹線道路ネットワーク形成を検討します。

② 広域連携を強化し、交流振興や利便性向上に資する公共交通の維持・充実

- ◆本市北部における東西方向の利便性強化のため、湘南台駅から健康と文化の森を通り、倉見(寒川町)方面に向けた相鉄いずみ野線の延伸を促進します。
- ◆本市西部における南北方向の新たな交通システム導入について研究します。
- ◆地区内交通の維持を図ります。

水・緑

① 水と緑のベルトゾーンの形成

- ◆小出川や打戻川を軸に神奈川県立茅ヶ崎里山公園から少年の森にかけて、また目久尻川を軸に用田地区周辺にかけて、地区内外を連携する「水と緑のベルトゾーン」の形成をめざします。

② まとまりのある樹林地の保全

- ◆用田の斜面地山林や葛原の平地にある樹林等、既存のまとまりのある樹林地については、環境や景観、防災上の見地から保全に努めます。
- ◆新たに計画的な土地利用誘導を図る地域では、樹林等の既存の緑地を中心に計画的な保全・創出を誘導します。

景観・防災・都市づくり等

① 「農・工・住が共存する環境共生都市」の実現に向けたまちづくり

- ◆「西北部地域総合整備マスタープラン」の実現に向け、社会状況変化等に対応しながら、段階的にまちづくりを推進します。
- ◆幹線道路沿道の一部等、無秩序な施設立地が想定される地区において、地域全体を見据えた中で区域を限定し、市街化調整区域の性格の範囲内での一定の都市的土地利用を計画的に誘導する等検討します。
- ◆浸水被害の軽減に向け、目久尻川の治水対策を促進します。

② 農を通じた交流振興を支える取組

- ◆農業、農地への関心が高まる中で、農業・農地を通じた活気・活力創出に向けたまちづくりをめざします。
- ◆地域全体をみすえ、交通環境と一体となった農業交流拠点、施設等の計画的な整備について検討します。

御所見地区将来構想図

序章

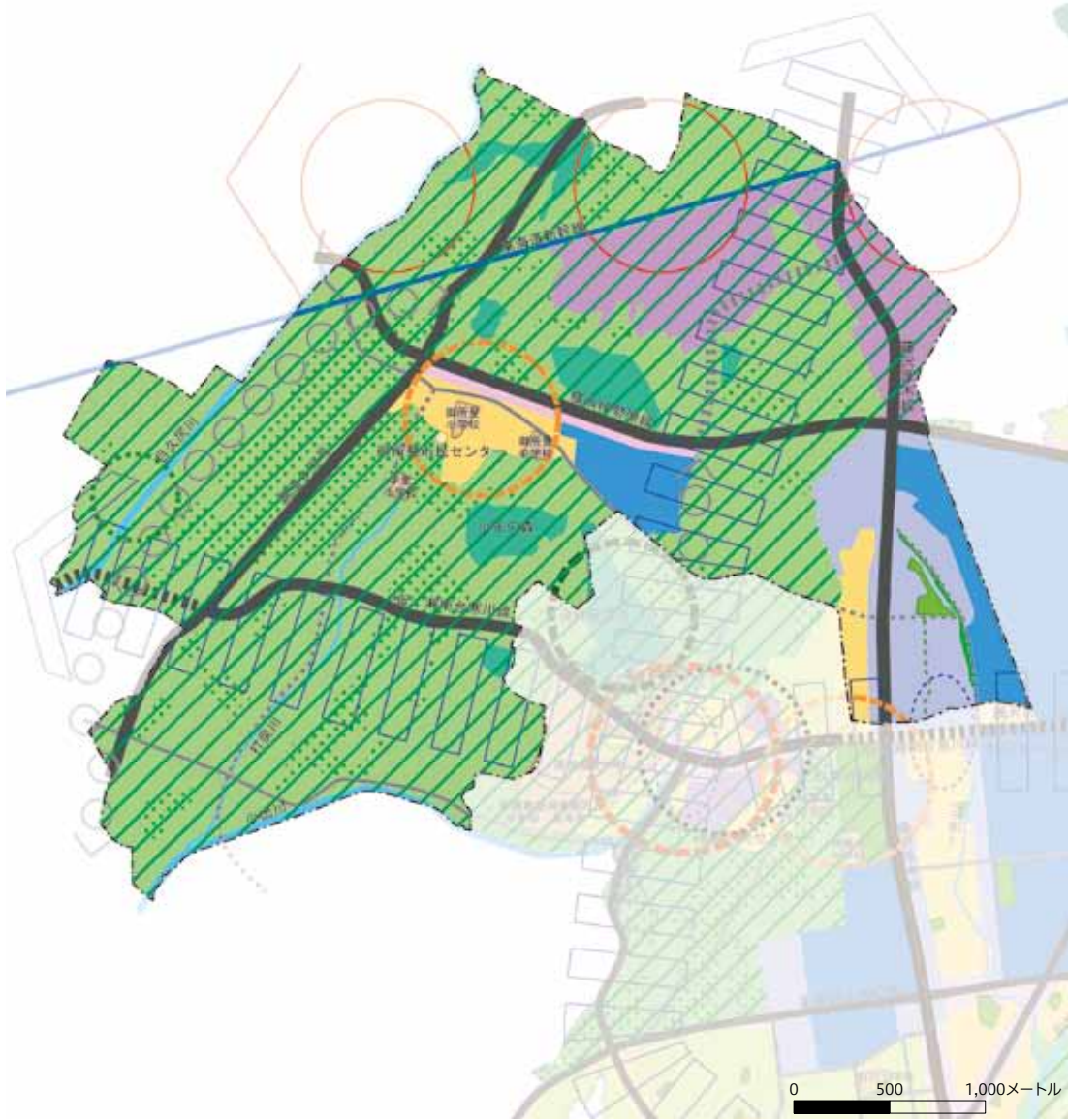
第1章

第2章

第3章

第4章

資料編



	都市拠点		鉄(軌)道		低層住宅専用ゾーン
	地区拠点		自動車専用道路		中高層住宅専用ゾーン
	緑の保全拠点		主要幹線道路		一般住宅ゾーン
	都市農業交流拠点		幹線道路		集落地ゾーン
	市街地検討エリア		補助幹線道路		田園ゾーン
	13地区		歩行者自転車専用道路		緑地等ゾーン
	公共施設		(実線:整備済)		遊水地ゾーン
	学校(小、中、高、大学)		(点線:未整備・概整)		文化・教育・公共施設ゾーン
	港湾		(円 :構想)		商業・業務ゾーン
	水と緑のネットワーク		新たな公共交通(構想)		地域型商業ゾーン
	都市計画公園 (整備済(一部整備済含む))		海上交通		沿道型商業ゾーン
	都市計画公園(未整備)				工業住宅複合ゾーン
					工業ゾーン
					新産業ゾーン